

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4265
22年7月12日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

SDGs (持続可能な開発目標) 実践 郵便局を「街の給水スポット」に！



おはようございます。毎日暑いですね。皆さん大丈夫ですか。最近では駐車場の出口で管理者や総務部社員が、出発する社員に麦茶をコップに注いで渡してくれます。出発前の一口、嬉しいですね。梅雨が早く開けたため長い夏になる今年は、猛暑への対策が重要になります。皆さんはどんな対策を取っていますか。手軽なのは冷却タオルや冷感スプレーなどですが、ネッククーラーやネックリングをつけている人も見かけます。自分に合ったグッズを使用して少しでも快適に酷暑を乗り切りたいでしょう。

外務社員にとっては熱中症対策のカギとなるのは、水の補給です。長中局では、以前から熱中症対策としてウォーターサーバーを設置（各集配センターへは2ℓ入りのペットボトルで配水）し、社員に飲料水を提供しています。毎日2〜4ℓくらいは水分を取る外務員にとっては、このウォーターサーバーは非常に助かる対策となっています。



使い捨て容器入り飲料の利用を減らし、環境負荷の低減と魅力的なまちづくりを推進する活動のプラットフォームです。リフィルの給水スポットは大きく分けて、「公共の水飲み・給水インフラ」と「店舗等の無料給水サービス」があります。スマホなどで「リフィルスポット」と検索すれば各地の給水スポットを見つけることができます。

この「水の補給」。郵便局以外でも手軽に無料で利用できる「給水スポット」があればよいと思いませんか。外出先でのがどが渴いたときに、気軽に水を飲む水飲み場、マイボトルが空になったときに無料で水を補充できる給水器やお店、こうした「場所」が「給水スポット」です。今、この給水スポットを設置・利用する運動が注目されています。今日はリフィル(Refill Japan)を紹介します。リフィルは日本全国に給水スポットを広げること、ペットボトル等の

外務社員が配達中に、店舗等の無料給水サービスを利用することは難しいと思いが、公共施設に水飲み・給水インフラ設置が広がれば配達中、自販機などで購入しなくても済むようになります。もともと、郵便局にはエリアマネジメント局(旧特定局)のロビーなどに、誰でも利用できる冷水器が設置されていま

した。現在も愛宕局などにあります。ただ以前から設置しているものの利用者数が少なく、スペースの関係もあり撤去する話も聞きます。コロナ渦では特に利用をためらう人も多いと思います。

そこで郵便局が、日本郵政グループとしてこのリフィルに参加し、給水スポットになることを提案します。給水スポットになった店舗は、リフィルの給水スポットマップに掲載されアプリで検索されますし、当然郵便局名が出ます。また店頭にステッカーを貼りだすことでだれでも利用できるという事がわかりやすくなります。

今回はリフィルを紹介しましたが、無印良品も以前から同様の取り組みを行っています。多くの無印良品の店舗には給水スポットがあり、アプリでは無印良品設置の給水スポット以外の自治体など公共の給水スポットも探すこともできます。日本郵政グループの規模を考えると、無印良品のように自前で同様の運動を立ち上げることも可



能です。SDGs(持続可能な開発目標)実践の面からも大きなアピールになると思います。郵便局の場合は、新規来店者の獲得は考えなくてもよいと思いますが、給水スポットになることで環境・社会配慮の姿勢を示すことができます。

リフィルのホームページには、「街にすてきな水飲み場や給水ステーションを増やすことは、魅力的なまちづくりにつながります。また、店舗での給水サービスの提供や、ゆっくり淹れたお茶は、新たなコミュニケーションのきっかけになり、人の「和」が広がります」とも謳われています。日本郵政グループの理念にマッチしていると思いませんか。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。

ゆげ、均等待遇、なげんき差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ！

